

団体名：クリスタ長堀株式会社
所管局：建設局

資料 1

概 況

○令和元年度第 2 四半期（平成31年4月1日～令和元年9月30日）の経営状況について

売上高	731	（前年度比 ▲40）	（金額の単位は百万円）
営業利益	212	（前年度比 ▲64）	
当期純利益	160	（前年度比 ▲58）	

入居率 令和元年 9 月末現在 全体99% ※パリエタウンリニューアル区画除く
（平成30年度末現在 全体99%）

○令和元年度第 2 四半期（平成31年4月1日～令和元年9月30日）までの実績

（ 1 ） 前年度同期実績との比較 （金額の単位は百万円）

	元年度	30年度	増減	増減説明
売上高	731	772	▲ 40	賃料収入 ▲29 宝くじ販売手数料 ▲8
営業費用	519	495	23	水道光熱費 +3 占用料 +2 修繕維持費 +13 業務委託費 +7
営業利益	212	277	▲ 64	
税引前当期純利益	179	251	▲ 71	
法人税等	19	32	▲ 13	
法人税等調整額	-	-	-	
当期純利益	160	218	▲ 58	

（ 2 ） 令和元年度第 2 四半期予算との比較 （金額の単位は百万円）

	決算	予算	増減	増減説明
売上高	731	729	2	賃料収入 +7 電気使用料収入 ▲4
営業費用	519	534	▲ 15	水道光熱費 ▲7 修繕維持費 +4 広告宣伝費 ▲12
営業利益	212	194	18	
税引前当期純利益	179	167	12	
法人税等	19	17	1	
法人税等調整額	-	-	-	
当期純利益	160	149	10	

団体名： クリスタ長堀株式会社

所管局： 建設局

経営改善に向けた課題及び取組

元年度の目標及び取組	これまで（元年度第 1・2 四半期）の取組及び成果		今後（元年度第 3・4 四半期）の目標及び取組
（課題） ◎収益の確保と地下街の活性化 民間事業者の専門的なノウハウを地下街運営に活用しながら、賑わいの創出、賃料収入の確保に努め、安定的なキャッシュフローを維持する。 本年度はバリエタウン（北側区画）のリニューアルにより、一時的な資金需要や賃料収入の減少が想定されるが、リニューアル効果により次年度以降の安定的な収益の確保をめざす。 ○賃料収入（目標） 令和元年度 1,130 百万円 ○テナント売上高（目標） 令和元年度 92 億円 ○年間入室率（目標） 令和元年度 99% ○資金残高（目標） 令和元年度末 2,430 百万円 （中期経営計画 1,972 百万円） （特定調停事業計画 1,030 百万円）	（これまでの取組内容） ○営業方針に基づく販促活動の実施 ・チェックバックキャンペーン（4 月、9 月） ・プレミアムフライデー（毎月） ・GW キッズフェスタ（5 月） ・J A大阪と連携した大阪産グルメフェア（9 月） ・情報誌「CRYSTYLE」の発行（2 回） ○空店舗区画の解消 売上不振店舗の入替や賃料負担力の高い店舗誘致 ○地下街バリエタウン（北側区画）のリニューアル ・既存店舗との協議（移転及び退店） ・新規店舗のリーシング ・リニューアルコンセプトに併せた通路の環境整備を実施 ・開業販促計画の検討	（成果） ○賃料収入 第 1 四半期 2.7 億円（前年 2.9 億円） 第 2 四半期 2.7 億円（前年 2.9 億円） 計 5.5 億円（前年 5.8 億円） ○テナント売上高 第 1 四半期 22.1 億円（前年 23.9 億円） 第 2 四半期 22.1 億円（前年 23.7 億円） 計 44.2 億円（前年 47.6 億円） ○入居率 令和元年 9 月末 99% （バリエタウンリニューアル区画除く） ○地下街MDに即した新規店舗の誘致 「ビクトリノックス」、「海山（みやま）」 ○リニューアル区画の進捗 ・既存店舗（8 月末まで）の退店及び移転 ・テナント及び通路部の工事着手 ○資金残高 令和元年 9 月末 2,547 百万円	（今後の目標及び取組） ○令和元年度目標の確実な達成 賃料収入、テナント売上高、年間入室率及び資金残高 ○営業方針に基づく販促活動の実施 （施設ブランドイメージの向上） ・ターゲットに即した営業・販促施策の実施 各種シーズンイベント（ハロウィン、クリスマスなど）や「CRYSTYLE」の発行（春期） ・大阪産グルメフェアの開催 ・チェックバックキャンペーン ○リニューアル区画『KURAPER0』オープン（12 月 6 日） ・新たなグルメゾーン（10 店舗）オープン ・かつての長堀川をイメージし、「蔵」をモチーフとした統一感のある通路の環境整備 ・レストスペースの設置 ○次年度事業計画・予算の検討・決定 ・次期中期経営計画を見据えた事業計画案の作成
◎安全、安心、快適な地下街の実現 地下街施設、設備について、大阪市と連携しながら適切に更新し、都市基盤の一翼を担う安全、安心、快適な地下空間を維持する。 ○地下街施設の設備更新（電気設備及び機械設備など）の着実な実施 ○地下街の活性化に向けた環境づくり ○地下街の利便性の向上	○電気設備及び機械設備など ・電気設備及び機械設備の「中長期設備修繕計画」に基づく更新工事の実施 ・防火シャッターの更新については、事業計画に基づきテナント等と調整のうえ実施（当初計画 43 基） ○地下街の活性化に向けた環境整備 施設イメージと快適性の向上の観点から、地下街の景観づくりを検討 ○地下街利用者の利便性向上 空きスペース（宝くじ売場跡）の有効活用による利便施設の増設を検討	○電気設備及び機械設備など ・電気設備及び機械設備更新工事 エレベーター・防災監視設備・空調設備などの更新工事に着手 ・防火シャッター更新工事 バリエリニューアルに伴い大幅に進捗（36 基更新） ○地下街の活性化に向けた環境整備 ・サイン、広場の活用などの検討及び一部着手 「月見の広場」吹き抜け空間の景観整備に着手 ○地下街利用者の利便性向上 利便複合施設（外貨両替機・A T M機・コインロッカー）の整備着手	○電気設備及び機械設備など ・2019 年度更新予定工事の完成 ・テナント入替に伴う防火シャッター等の更新を完了 防火シャッター 44 基更新完了 ○地下街の活性化に向けた環境整備 ・サイン、広場の活用などの継続検討及び一部実施 「月見の広場」吹き抜け空間の景観整備完成 ○地下街利用者の利便性向上 ・利便複合施設の完成 （外貨両替機：1 台、A T M機：1 台、コインロッカー：11 台）

団体名：クリスタ長堀株式会社
所管局：建設局

資料 3

令和元年度第2四半期の決算状況（損益計算書）

（平成31年4月1日～令和元年9月30日）

（単位：百万円）

	1 第2四半期 決算①	30第2四半期 決算②	（参考） 30末決算	（参考） 29末決算	増減①-② （対前年同期比）	予算比（第2四半期時点）	
						1 予算③	増減①-③
売上高	731	772	1,539	1,505	▲ 40	729	2
売上原価	482	463	967	968	18	501	▲ 19
売上総利益	249	309	572	536	▲ 59	227	22
一般管理費	37	32	67	66	4	32	4
営業利益	212	277	505	470	▲ 64	194	18
営業外収益	12	5	3	8	6	3	8
受取利息	0	0	1	0	0	0	0
雑収入	11	4	2	7	6	2	8
営業外費用	39	29	58	69	10	27	11
支払利息	27	29	57	61	▲ 1	27	-
雑損失	11	0	0	7	11	0	11
経常利益	185	252	450	409	▲ 67	169	15
特別利益	-	-	-	-	-	-	-
特別損失	5	1	17	6	4	2	3
固定資産除却損	5	1	4	6	4	2	3
減損損失	-	-	12	-	-	-	-
税引前当期純利益	179	251	433	403	▲ 71	167	12
法人税、住民税及び事業税	19	32	63	30	▲ 13	17	1
法人税等調整額	-	-	2	24	-	-	-
当期純利益	160	218	367	349	▲ 58	149	10

※百万円未満端数切捨て

団体名：クリスタ長堀株式会社
所管局：建設局

資料4

令和元年度第2四半期の決算状況（貸借対照表）

（令和元年9月30日現在）

（単位：百万円）

		1 第2四半期 決算①	30末決算②	増減①-② (対30末決算比)
資産		8,215	8,468	▲ 252
	流動資産（現金預金）	2,547	2,730	▲ 182
	流動資産（その他）	212	379	▲ 167
	固定資産（有形固定資産）	5,084	5,095	▲ 10
	固定資産（その他）	370	262	108
負債		18,364	18,778	▲ 413
	流動負債	1,045	1,248	▲ 203
	固定負債（長期借入金）	16,274	16,456	▲ 181
	固定負債（その他）	1,045	1,073	▲ 28
純資産		▲ 10,149	▲ 10,309	160
	資本金等	100	100	-
	利益剰余金	▲ 10,249	▲ 10,409	160

※百万円未満端数切捨て